

今回の北朝鮮による見え透いた日韓分断工作をみるにつれ、拉致被害者家族会のこれまでの苦労と現在も続く苦しみに胸が締め付けられる思いです。

弊社は、もともと拉致事件をスクープした経緯もあって、拉致問題に常に熱心だったかというところ、これまでの紙面の扱いをみても残念ながらそう言い切る自信はありません。しかし、家族会の皆さんの強さは信じています。

小泉首相の初訪朝を前にした社内のある会議で、私は「家族会の人たちは政府や外務省からは、ただの可哀相な人たちと見られていますが、実はこれまでの活動で筋金入りです。甘くみてはいけません」と主張しましたが、当時、それに納得してくれる人は多くなかったような気がします。

もちろん、拉致を許せない問題ととらえる方向性としては現在と同じですが、小泉訪朝にあたって慎重論を唱えた当時の安倍副長官に対しても社内に「まだ若く外交を知らないから」と軽視する向きがあったのも事実です。

しかし、その後の展開をみると、拉致被害者家族の戦う姿は、国民の多くの心を揺り動かし、拉致事件は今日、国際社会でも共感をよびつつあります。

今回、北朝鮮が金英男さんと母親を会わせると高飛車に言い出した件にしても、日本側の家族にはヘギョンちゃんて揺さぶられ、葛藤のすえに訪朝を拒んだ貴重な経験があります。

横田夫妻は、この卑劣なやり口を理解しつつも辛いことだと思います。しかし、今、米国の金融制裁や安倍長官主導の法厳格執行で本当に追い詰められているのは北朝鮮の方です。

先日、韓国民団と朝鮮総連が和解し、多くのマスコミはまるで慶事のように報じましたが、政府関係者によれば「総連は民団と仲良くするのが目的ではなく、民団を通じて韓国政府中枢と直接通じ、日本政府に在日差別はやめろと筋違いのプレッシャーを与えるのが目的」だそうです。

家族会のみなさん、非力ですが心から応援しています。現在の姿勢を貫いて頑張ってください。